多職種で安全な社会を ～ CDR（チャイルド・デス・レビュー）で目指すこと～

沼口　敦
名古屋大学医学部附属病院　救急・内科系集中治療部

CDR（Child Death Review；予防のための子どもの死亡検証）とは，「子どもの死亡に関する効果的な予防策を導き出すことを目的に，複数の関係機関・専門家が，死亡した子どもの既往歴，家族背景，当該死亡に至った直接の原因等に関する情報を基に行う，当該死亡に関する検証」である。

わが国では成育基本法の制定をはずみとして，成育医療の延長線上にCDRの実装が求められるようになった。各種の医学的研究をとおして具体的な方法論が提案されたのち，2020年度から厚生労働省は，都道府県を実施主体とするモデル事業を実施し，体制整備を探索した。R5にも都道府県モデル事業が予定されている。

現在探索中のCDRは，調査（情報共有）－検証－提言から構成され，各地域の多機関合議体がこれを実施する。特に検証では，収集された一次情報を集約してから全体像を把握するまで，把握された全体像を眺めて介入のありかた等の学びのポイントを探索するまで，探索された論点を実現可能なプランに落とし込むまで，それぞれのステップにおいて多職種が対等に情報と意見を共有することが望まれる。各々の専門性を背景に話し合うが，ひとつの事象から導かれる解はひとつではなく，参加者の創造的な姿勢が求められる。

本講演では，わが国のCDRについて改めて概説し，これまでいくつかの自治体で探索されてきたモデル事業等の経験も踏まえ，子どもにとって安全・安心な社会の実現を目指すために小児保健関係者がCDRで果たす役割を考察する。

Presented by Medical*Online